

氏名	齋藤文子
学位の種類	博士(医学)
学位記番号	甲第1092号
学位授与の日付	平成27年10月6日
学位論文題名	睡眠時無呼吸症候群患者における持続陽圧呼吸療法の自己効力感尺度の開発と評価
指導教授	橋本修二
論文審査委員	主査 教授 八谷 寛 副査 教授 内藤 健晴 教授 今泉 和良

## 論文内容の要旨

### 【緒言】

閉塞性睡眠時無呼吸症候群(OSAS)の標準的な保存的治療として、持続陽圧呼吸(CPAP)療法が確立されている。長期に渡って患者がCPAPの適切な使用を継続することが重要であり、それに対して患者の自己効力感が強く関係すると指摘されている。自己効力感とはBanduraによる社会的学習理論の概念で、効力期待と結果期待の2領域を中心に規定される。OSAS患者におけるCPAP治療の自己効力感の尺度は欧米で開発・使用されているが、日本人OSAS患者へ利用可能な尺度は見当たらない。

日本人OSAS患者におけるCPAP治療の自己効力感の尺度を開発するとともに、その尺度の妥当性と再現性を評価することを目的とした。

### 【方法】

尺度の開発として、欧米の2つの自己効力感尺度のアイテムを用いて、翻訳・逆翻訳の手順によって、日本語版の27アイテムをアイテムプールとした。日本人CPAP患者8人に対して、グループインタビューによりアイテムプールのアイテムに対する意見を得た。その意見と後述の調査結果に基づいて、フォーカスグループ(呼吸器内科医1人、看護師2人、生物統計家1人)がアイテムの削除・追加・変更を行い、尺度を確定した。回答肢は「全く当てはまる」～「全く当てはまらない」の5段階とした。

尺度の評価として、CPAP治療中の日本人OSAS患者を対象とする質問紙調査を実施した。調査回答者653人に対して、尺度の因子分析、他の自己効力感の尺度との相関分析、クロンバック $\alpha$ 係数の算定を行った。他の自己効力感の尺度としてGeneral Self-Efficacy Scaleと「慢性疾患患者の健康行動に対するセルフ・エフィカシー尺度」を用いた。対象者の一部に対して調査の10～14日後に再調査を実施し、回収者130人に対し、2回の回答結果から尺度の級内相関係数を算定した。

### 【結果】

効力期待と結果期待の2領域、15アイテムで構成された尺度を開発した。

効力期待の領域のアイテムでは第1因子の因子負荷量が0.47-0.76、結果期待の領域のアイテムでは第2因子の因子負荷量が0.41-0.92と大きかった。クロンバック $\alpha$ 係数は効力期待が0.85、結果期待が0.89であった。効力期待と結果期待に対する相関関係はそれぞれGeneral Self-Efficacy Scaleが0.09と0.10、「慢性疾患患者の健康行動に対するセルフ・エフィカシー尺度」の下位尺度の「疾患への対処行動の積極性」が0.84と0.85、下位尺度の「健康に対する統制感」が0.27と0.28であった。級内相関係数は効力期待が0.93、結果期待が0.93であった。

### 【考察】

尺度の開発としてはBanduraによる社会的学習理論の概念枠組みに基づき、標準的な手順に従って実施した。本尺度は回答するOSAS患者への負担が大きくなり、研究と一般臨床への適用可能性を有すると考えられた。尺度の評価として、因子分析結果から因子妥当性が、クロンバック $\alpha$ 係数から内的整合性が、相関分析結果から構成概念妥当性が、級内相関係数から再現性がある程度満たすことが示唆された。本尺度はさらなる改善と評価を進めるとともに、日本人OSAS患者におけるCPAP治療の自己効力感とアドヒアランスの関連性の研究などに応用し、その有用性を検討することが重要であろう。

### 【結論】

日本人OSAS患者におけるCPAP治療の自己効力感の尺度を開発し、その尺度が一定の妥当性と再現性を有すると示唆された。

## 論文審査結果の要旨

閉塞性睡眠時無呼吸症候群(OSAS)患者に対する持続陽圧呼吸(CPAP)療法において、アドヒアランスの向上が最も重大な課題の1つである。アドヒアランスの向上に対して、自己効力感の重要性が指摘され、欧米では、CPAP治療の自己効力感尺度が開発・評価・適用されている。

本研究では、日本人OSAS患者のCPAP治療の自己効力感尺度が開発されるとともに、その再現性と妥当性が評価された。尺度の開発は標準的な手順に従っており、また、その評価結果は比較的良好であった。尺度の分量と内容からみて、患者への負担が小さく、研究や一般臨床への適用にとくに大きな問題は見当たらない。今後、日本人OSAS患者のCPAP治療の自己効力感とアドヒアランスの関連性研究などにおいて、本尺度の適用が想定され、当該分野の研究の進展が期待される。この研究成果の一部は“Development and evaluation of a self-efficacy instrument for Japanese sleep apnea patients receiving continuous positive airway pressure treatment. Nature and Science of Sleep. 2015; 7: 25-31”に掲載された。

以上より、本研究は学位授与に十分値するものと評価された。